

2.9.2. 教員業績概要

職名： 准教授	氏名： 佐々木 淳
---------	-----------

[教育活動]

(a) 学部担当授業科目

情報システム構築学, 性能評価, 情報システム演習 A, B, C, 情報システムゼミ A, B, 卒業研究・制作 A, B, 基礎教養入門, プロジェクト演習 I, II

(b) 研究科担当授業科目

情報システム評価特論, ゼミナール I, II, III, ソフトウェア情報学研究

(c) その他（教育内容・方法の工夫, 作成した教材など）

- 1) 講座ゼミ夏合宿実施（八幡平市, 2010. 8. 12－8. 13）
- 2) 講座ゼミ冬合宿実施（花巻市, 2011. 2. 20－2. 21）

[研究活動]

(a) 著書

- 1) H. Fujita and J. Sasaki (Editors), “Selected Topics in Applied Computer Science”, WSEAS, ISBN: 978-960-474-231-8, Oct. 2010.
- 2) H. Fujita and J. Sasaki (Editors), “Selected Topics in Education & Educational Technology”, WSEAS, ISBN: 978-960-474-232-5, Oct. 2010.
- 3) H. Fujita and J. Sasaki (Editors), “Selected Topics in System Science & Simulation in Engineering”, WSEAS, ISBN: 978-960-474-230-1, Oct. 2010.
- 4) H. Fujita and J. Sasaki (Editors), “Selected Topics in Power Systems and Remote Sensing”, WSEAS, ISBN: 978-960-474-233-2, Oct. 2010.

(b) 査読ありの論文誌に掲載された論文

- 1) 佐々木淳, ライフサポートネットワークの提案と構築に向けた課題, 日本福祉介護情報学会・福祉情報研究, No. 5, p. 30-52, 2009. 3（昨年度記載漏れ）

(c) (b) 以外の査読付き成果（論文誌ではない学術論文、国際会議プロシーディング、ワークショップ等）

- 1) Jun Sasaki, Keizo Yamada, Masanori Takagi, Michiru Tanaka and Akiko Ogawa: “Development of a Monitoring System Using Telephones for the Elderly Living Alone”, Proceedings of the 9th International Conference on Software Methodologies, Tools and Techniques (SoMeT 2010), pp. 467-477, Sept. 2010.
- 2) Jun Sasaki, Keizo Yamada, Masanori Tagagi, Michiru Tanaka and Akiko Ogawa: “Study on Economical Structure of Safety Monitoring System by using Telephone for Elderly People Living Alone”, Proceedings of 10th WSEAS International Conference on Applied Computer Science (ACS’ 10), pp. 447-454, Oct. 2010.
- 3) Masanori TAKAGI, Tetsuya KANEKO, Masamitsu MOCHIZUKI, Jun SASAKI, Yoshimi TESHIGAWARA: A Survey on Educational Methods Using “CollabTest”, a Web-based Learning System Enabling Students to Create Quizzes Collaboratively, Proceedings of the 9th WSEAS International Conference on EDUCATION and EDUCATIONAL TECHNOLOGY (EDU’ 10), pp. 318-324, Oct. 2010

(d) 研究発表（査読なしの論文等）

- 1) Masanori TAKAGI, Keizo YAMADA, Jun SASAKI, Tetsuya KANEKO, Masamitsu MOCHIZUKI, Yoshimi TESHIGAWARA,

An Analysis on Teaching Methods Using a WBT System “CollabTest” Enabling Students to Create Quizzes Collaboratively, The third EWU-IPU International Exchange Program in Computer Science 2010, pp.5-6, Sept. 2010

- 2) 清水新太郎, 高木正則, 山田敬三, 佐々木淳, 小松繁樹: 肉用牛の品質向上に向けた生産支援システムの研究, 平成 22 年度電気関係学会東北支部連合大会, 2C13, p. 98, 2010. 8
- 3) 佐藤俊幸, 寒川陽美, 大和田功, 高木正則, 山田敬三, 佐々木淳: 工業製品自動検査用フェイルセーフシステムの開発, 第 9 回情報科学技術フォーラム講演論文集 (第 1 分冊), C-022, pp. 439-440, 2010. 9
- 4) 吉田昌平, 佐藤俊幸, 高木正則, 山田敬三, 佐々木淳: 小学生向け食育支援システム, 第 9 回情報科学技術フォーラム講演論文集 (第 4 分冊), O-022, pp. 535-536, 2010. 9
- 5) 菅原遼介, 高木正則, 山田敬三, 佐々木淳: 地域固有の知識ベース充実に向けたシステム構成の提案, 第 9 回情報科学技術フォーラム講演論文集 (第 4 分冊), O-033, pp. 557-558, 2010. 9
- 6) 吉田昌平, 佐藤俊幸, 高木正則, 山田敬三, 佐々木淳: 農業体験学習の経験を食育に結び付ける学習支援システムの提案, 情報処理学会第 73 回全国大会講演論文集 (第 4 分冊), 2ZC-4, pp. 443-444, 2011. 3
- 7) 菅原遼介, 高木正則, 山田敬三, 佐々木淳: 地域に対する知識ベース充実へ向けた作問支援システムの設計, 情報処理学会第 73 回全国大会講演論文集 (第 4 分冊), 4ZC-3, pp. 481-482, 2011. 3
- 8) 伊藤貴之, 高木正則, 山田敬三, 佐々木淳: VoIP 技術を用いた農業情報配信システムの提案, 情報処理学会第 73 回全国大会講演論文集 (第 4 分冊), 5ZE-6, pp. 677-678, 2011. 3
- 9) 田中貴介, 梶 真人, 高木正則, 山田敬三, 佐々木淳: デジタルフォトフレームを活用した独居高齢者見守りシステムの提案, 情報処理学会第 73 回全国大会講演論文集 (第 4 分冊), 6ZE-2, pp. 683-684, 2011. 3
- 10) 小川晃子, 狩野徹, 佐々木淳, 細田重憲, 植田眞弘, 元田良孝, 石川みち子, 黒澤美枝, 宮城好郎, 千田睦美, 山田幸恵, 庄司知恵子, 山田敬三, 高木正則, 宇佐美誠史, 佐藤俊治, 上森貞行, 直井道子: ICTを活用した高齢者生活支援型コミュニティづくり」プロジェクト実践報告, 岩手県立大学社会福祉学部紀要 (2010)

(e) 研究費の獲得

- 1) 公募型地域課題研究: 地元食材の機能性・食味特性を生かす料理情報提供システムの構築 (継続, ホテル安比グランドの課題, 研究代表者: 佐々木淳) : 300,000 円
- 2) 公募型地域課題研究: 持続可能な食育に向けた食育支援システムに関する研究 (紫波町の課題, 研究代表者: 高木正則) : 600,000 円
- 3) 公募型地域課題研究: 電話を活用した独居高齢者安否確認システムのサービス品質と最小コスト問題に関する研究 (株式会社イワテシガの課題, 研究代表者: 佐々木淳) : 450,000 円
- 4) 公募型地域課題研究: 地域包括ケアにおける ICT 活用による情報共有の有効性に関する研究 (株式会社ワイズマンの課題, 研究代表者: 小川晃子) : 450,000 円
- 5) 共同研究: ウェルネスサポートシステムの実用化に向けた基盤研究 (シチズンシステムズ株式会社, 研究代表者: 佐々木淳) : 940,000 円
- 6) 受託研究: 「熱間鍛造向けインライン赤外線画像処理検査装置の開発」のうち, デュアル PC システム開発 (株式会社北上オフィスプラザ, 継続, 研究代表者: 佐々木淳) : 230,924 円
- 7) 共同研究: 工業製品自動検査システムの高信頼化に関する研究 (有限会社イグノス, 研究代表者: 佐々木淳) : 33,000 円
- 8) 科学技術振興財団 (JST) 社会技術研究開発事業「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」研究開発領域: ICT を活用した生活支援型コミュニティづくり (研究代表者: 小川晃子) : 24,960,000 円 (2010 年度)

- 9) 総務省戦略的情報通信研究開発制度(SCOPE)地域 ICT 振興型研究開発：メンタルクローニング手法を用いたバーチャル・ドクター・システムの研究開発（研究代表者：藤田ハミド）

(f) その他総説・解説，調査報告・市場調査，特許，受賞，報道など

- 1) 「高齢者守る情報通信，生活支援システム化」：岩手日報（2010 年 10 月 9 日）
- 2) 「健康管理システム 岩手県立大学と開発 茨城のソフト会社 自宅の端末利用」：日本経済新聞 東北版（2011 年 3 月 9 日）
- 3) 「オフィスM&Mと岩手県立大 健康管理システムを開発 ネット経由で医師が指導 幅広い製品に対応」：日本経済新聞（2011 年 3 月 9 日）

[大学運営]

(a) 全学委員会

該当無し

(b) 学部/研究科の委員会

- 1) 学部入試実施委員会 委員長
- 2) 学部入試部会 幹事会 メンバー
- 3) アイーナキャンパス事業 学部担当教員，「IPU 情報システム塾」の開講（塾長）

(c) 学生支援

- 1) 高校訪問（入試説明等 合計 3 校）
- 2) 高校生見学対応（入試説明等，合計 2 回）

(d) その他

- 1) IPU 地域連携フォーラムへの参加（ポスターセッション，平成 22 年 12 月 18 日）
 - ・岩手こだわり食材データベース「いわて食マップ」の開発
 - ・診療所を中心としたウェルネスサポートシステムの研究

[社会貢献]

(a) 国や地方自治体などにおける活動

- 1) ICT 地域振興サポーターズ登録（岩手県政策地域部）
- 2) 岩手県立病院医事会計システム構築業務技術提案審査委員会 委員（岩手県医療局）
- 3) 平成 22 年度 市町村中堅職員研修 講師（岩手県市町村会）
- 4) 新型福祉安心電話サービス開発事業検討委員会 委員（青森県社会福祉協議会）
- 5) 県立大学出身者のUターンと企業立地を進める誘致活動への協力（岩手県商工労働観光部，平成 22 年 8 月 4 日，2 月 8 日に東京，神奈川県の企業を訪問）

(b) 企業・団体などにおける活動

- 1) (株) イグノス 取締役
- 2) NTT Technical Review 外部査読委員
- 3) NHK 盛岡放送局へのデザインQRコードの宣伝活動（銀河通信株式会社，平成 22 年 9 月 17 日）

(c) 一般教育

- 1) アイーナキャンパス事業「IPU 情報システム塾」の企画・開催（塾長）

(d) 産学連携

- 1) 岩手県医療福祉情報化コンソーシアム「ポラーノ広場」副会長兼事務局：総会・記念講演会の開催等
- 2) バーチャル・ドクター・システム評価委員会の開催（4回）

(e) 学会などにおける活動

- 1) IEEE 会員
- 2) 電子情報通信学会 会員
- 3) 情報処理学会 会員
- 4) 電気学会 会員
- 5) 日本医療情報学会 会員
- 6) 社会情報学会 会員
- 7) 情報システム学会 会員
- 8) 日本福祉介護情報学会 会員
- 9) 論文査読：SoMeT2009（3編），東海大学紀要（1編）
- 10) WSEAS 合同国際会議（平成 22 年 10 月 4 日～6 日，安比高原）事務局長

(f) その他

- 1) 県立大学祭ステージでのバンド演奏（アンサンブルこずかた，平成 22 年 10 月 24 日）
- 2) クロステラスでのバンド演奏（アンサンブルこずかたリズム隊，平成 22 年 9 月 19 日）

[主な業績]

1. ライフサポートネットワーク構築法の研究

- (1) 健康増進支援システム（IHISS: Integrated Health Improvement Supporting System）については，在宅栄養管理機能の開発を中心に行った．その概念をさらに汎用化し，標準インターフェースとアーキテクチャを有する「ウェルネスサポートシステム」というコンセプトを提案した．この提案に賛同する企業から具体化を図るため，共同研究を実施することができた．
- (2) 電話を用いた独居高齢者見守りシステムについては，生活支援機能，夜間休日対応方法等も青森県社会福祉協議会とも連携しながら検討し，より実用的な岩手県版社会システムとして構築した．本件については，社会福祉学部小川晃子教授が申請する際に中心となるシステムとして認められ，その結果，JST からのプロジェクトとして採用された（学長表彰）．システムの経済化に関する研究については，（株）イワテシガから公募型課題研究として，実施することとなった．また，介護支援システムと本システムとの連携については（株）ワイズマンから公募型地域課題研究（代表：小川晃子教授）として実施することとなった．
- (3) 地域診療所の医師を支援する診察受付システム，在宅診断システムについては盛岡市内の内科医院の指導のもとで研究を進め，性格診断も含めた心理問診システムとして開発を行った．

2. 農業情報システム構築法の研究

- (1) Asterisk サーバと光電話の技術を組み合わせ，岩手県の農業情報提供 Web システム「いわてアグリベンチャーネット」の情報を，PC を持たない農家に FAX で転送する機能として実現することにつなげることができた．
- (2) 紫波町と共同で開発している食育サポートシステムについては，農作物（りんごの木）の画像を小学校に日々配信するシステムを提案し，その有用性が紫波町から理解され，公募型地域課題研究の実施につながった．

職名： 講師	氏名： 山田 敬三
--------	-----------

[教育活動]

(a) 学部担当授業科目

計算モデル論、アルゴリズム論、ソフトウェア演習C、情報システム演習A、プロジェクト演習

(b) 研究科担当授業科目

該当無し

(c) その他（教育内容・方法の工夫、作成した教材など）

- 1) 講座ゼミ夏合宿実施（八幡平市，2010. 8. 12－8. 13）
- 2) 講座ゼミ冬合宿実施（花巻市，2011. 2. 20－2. 21）

[研究活動]

(a) 著書

該当無し

(b) 査読ありの論文誌に掲載された論文

該当無し

(c) (b)以外の査読付き成果（論文誌ではない学術論文、国際会議プロシーディング、ワークショップ等）

- 1) Jun SASAKI, Keizo YAMADA, Masanori TAKAGI, Michiru TANAKA, Akiko OGAWA: Development of a Monitoring System Using Telephones for the Elderly Living Alone, Proceedings of the 9th NEW TRENDS IN SOFTWARE METHODOLOGIES, TOOLS AND TECHNIQUES, pp. 467-477, Sept. 2010.
- 2) Jun SASAKI, Keizo YAMADA, Masanori TAKAGI, Michiru Tanaka, Akiko OGAWA: Study on Economical Structure of Safety Monitoring System by Using Telephone for Elderly People Living Alone in a Rural Area, Proceedings of the 10th WSEAS International Conference on APPLIED COMPUTER SCIENCE (ACS' 10), pp. 447-454, Oct. 2010.

(d) 研究発表（査読なしの論文等）

- 1) 清水新太郎，高木正則，山田敬三，佐々木淳，小松繁樹：肉用牛の品質向上に向けた生産支援システムの研究，平成 22 年度電気関係学会東北支部連合大会，2C13，p. 98，2010. 8
- 2) 佐藤俊幸，寒川陽美，大和田功，高木正則，山田敬三，佐々木淳：工業製品自動検査用フェイルセーフシステムの開発，第 9 回情報科学技術フォーラム講演論文集（第 1 分冊），C-022，pp. 439-440，2010. 9
- 3) 吉田昌平，佐藤俊幸，高木正則，山田敬三，佐々木淳：小学生向け食育支援システム，第 9 回情報科学技術フォーラム講演論文集（第 4 分冊），O-022，pp. 535-536，2010. 9
- 4) 菅原遼介，高木正則，山田敬三，佐々木淳：地域固有の知識ベース充実に向けたシステム構成の提案，第 9 回情報科学技術フォーラム講演論文集（第 4 分冊），O-033，pp. 557-558，2010. 9
- 5) Masanori TAKAGI, Keizo YAMADA, Jun SASAKI, Tetsuya KANEKO, Masamitsu MOCHIZUKI, Yoshimi TESHIGAWARA, An Analysis on Teaching Methods Using a WBT System “CollabTest” Enabling Students to Create Quizzes Collaboratively, The third EWU-IPU International Exchange Program in Computer Science 2010, pp. 5-6, Sept. 2010
- 6) 吉田昌平，佐藤俊幸，高木正則，山田敬三，佐々木淳：農業体験学習の経験を食育に結び付ける学習支援システムの提案，情報処理学会第 73 回全国大会講演論文集（第 4 分冊），2ZC-4，pp. 443-444，2011. 3
- 7) 菅原遼介，高木正則，山田敬三，佐々木淳：地域に対する知識ベース充実へ向けた作問支援システムの設計，情報処理学会第 73 回全国大会講演論文集（第 4 分冊），4ZC-3，pp. 481-482，2011. 3
- 8) 伊藤貴之，高木正則，山田敬三，佐々木淳：VoIP 技術を用いた農業情報配信システムの提案，情報処理学会第

73 回全国大会講演論文集（第 4 分冊），5ZE-6，pp. 677-678，2011. 3

- 9) 田中貴介，梔 真人，高木正則，山田敬三，佐々木淳：デジタルフォトフレームを活用した独居高齢者見守りシステムの提案，情報処理学会第 73 回全国大会講演論文集（第 4 分冊），6ZE-2，pp. 683-684，2011. 3
- 10) 小川晃子，狩野徹，佐々木淳，細田重憲，植田眞弘，元田良孝，石川みち子，黒澤美枝，宮城好郎，千田睦美，山田幸恵，庄司知恵子，山田敬三，高木正則，宇佐美誠史，佐藤俊治，上森貞行，直井道子：「ICT を活用した高齢者生活支援型コミュニティづくり」プロジェクト実践報告，岩手県立大学社会福祉学部紀要，Vol. 13，pp. 65-69，2011. 3

(e) 研究費の獲得

- 1) 公募型地域課題研究：電話を活用した独居高齢者安否確認システムのサービス品質と最小コスト問題に関する研究（株式会社イワテシガの課題，研究代表者：佐々木淳）：450,000 円
- 2) 公募型地域課題研究：地域包括ケアにおける ICT 活用による情報共有の有効性に関する研究（株式会社ワイズマンの課題，研究代表者：小川晃子）：450,000 円
- 3) 共同研究：ウェルネスサポートシステムの実用化に向けた基盤研究（シチズンシステムズ株式会社，研究代表者：佐々木淳）：940,000 円
- 4) 科学技術振興財団（JST）社会技術研究開発事業「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」研究開発領域：ICT を活用した生活支援型コミュニティづくり（研究代表者：小川晃子）：24,960,000 円（2010 年度）

(f) その他総説・解説，調査報告・市場調査，特許，受賞，報道など

該当無し

[大学運営]

(a) 全学委員会

該当無し

(b) 学部/研究科の委員会

- 1) 学部教務委員会 委員
- 2) 入試検討委員会 委員

(c) 学生支援

該当無し

(d) その他

- 1) IPU 地域連携フォーラムへの参加（ポスターセッション，平成 22 年 12 月 18 日）
 - ・岩手こだわり食材データベース「いわて食マップ」の開発
 - ・診療所を中心としたウェルネスサポートシステムの研究

[社会貢献]

(a) 国や地方自治体などにおける活動

該当無し

(b) 企業・団体などにおける活動

該当無し

(c) 一般教育

アイーナキャンパス事業「IPU 情報システム塾」の企画・補助、「Web アプリケーション開発コース」講師

(d) 産学連携

受託研究「ウェルネスサポートシステム情報基盤に関する研究」

(e) 学会などにおける活動

- 1) 情報処理学会 会員
- 2) 人工知能学会 会員
- 3) 人工知能学会 2011 年全国大会実行ローカル委員会 委員

(f) その他

該当無し

[主な業績]

- 1) 統合型健康増進支援システム構築に関する研究

医療機関と連携しながら地域住民の健康増進を行うことのできるシステム IHISS(Integrated Health Improvement Supporting System)について、栄養管理のための食事登録手法について検討した。

- 2) ユーザ指向型開発環境のための取り組み

エンドユーザが自らプロトタイプ・システムあるいはモックアップを作成するための Web アプリケーション自動生成について検討した。エンドユーザが設計した画面イメージから、DB を設計するための指針が必要であることが分かった。また、プログラムを自動生成するためのアーキテクチャについても検討した。

職名： 講師	氏名： 高木正則
--------	----------

[教育活動]**(a) 学部担当授業科目**

情報システム演習 A, B, C, 情報システムゼミ A, B, 卒業研究・制作 A, B, プロジェクト演習 I, II

(b) 研究科担当授業科目

ゼミナール I, II, III, ソフトウェア情報学研究

(c) その他（教育内容・方法の工夫、作成した教材など）

- 1) 講座ゼミ夏合宿実施（八幡平市，2010. 8. 12－8. 13）
- 2) 講座ゼミ冬合宿実施（花巻市，2011. 2. 20－2. 21）

[研究活動]**(a) 著書**

該当無し

(b) 査読ありの論文誌に掲載された論文

- 1) Masanori TAKAGI, Masahiro MOCHIZUKI, Masamitsu MOCHIZUKI, Yoshimi TESHIGAWARA: Proposal and Practice of an Exchange Learning through Quiz Creation and Peer-Review, International Journal of Informatics Society (IJIS), Vol. 2, No. 2, pp. 69-76, Aug. 2010.

(c) (b) 以外の査読付き成果（論文誌ではない学術論文、国際会議プロシーディング、ワークショップ等）

- 1) Jun SASAKI, Keizo YAMADA, Masanori TAKAGI, Michiru TANAKA, Akiko OGAWA: Development of a Monitoring System Using Telephones for the Elderly Living Alone, Proceedings of the 9th NEW TRENDS IN SOFTWARE METHODOLOGIES, TOOLS AND TECHNIQUES, pp. 467-477, Sept. 2010.
- 2) Jun SASAKI, Keizo YAMADA, Masanori TAKAGI, Michiru Tanaka, Akiko OGAWA: Study on Economical Structure of Safety Monitoring System by Using Telephone for Elderly People Living Alone in a Rural Area, Proceedings of the 10th WSEAS International Conference on APPLIED COMPUTER SCIENCE (ACS' 10), pp. 447-454, Oct. 2010.
- 3) Masanori TAKAGI, Tetsuya KANEKO, Masamitsu MOCHIZUKI, Jun SASAKI, Yoshimi TESHIGAWARA: A Survey on Educational Methods Using "CollabTest", a Web-based Learning System Enabling Students to Create Quizzes Collaboratively, Proceedings of the 9th WSEAS International Conference on EDUCATION and EDUCATIONAL TECHNOLOGY (EDU' 10), pp. 318-324, Oct. 2010
- 4) Lee See GOH, Masanori TAKAGI, Yoshimi TESHIGAWARA: Evaluation of Exchange Learning using CollabTest in Universities at Different Countries: Case Study, Proceedings of World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Healthcare, and Higher Education 2010, pp. 1717-1721, Oct. 2010.

(d) 研究発表（査読なしの論文等）

- 1) 高木正則，金子徹哉，望月雅光，勅使河原可海：作問演習システム「CollabTest」の利用実態調査，日本教育工学会研究報告集，JSET10-3，pp. 5-10，2010. 7
- 2) 清水新太郎，高木正則，山田敬三，佐々木淳，小松繁樹：肉用牛の品質向上に向けた生産支援システムの研究，平成 22 年度電気関係学会東北支部連合大会，2C13，p. 98，2010. 8
- 3) 高木輝彦，高木正則，勅使河原可海，植野真臣：LDA によるテスト項目の類似度算出手法，日本テスト学会第 8 回大会発表論文抄録集，pp. 160-161，2010. 8
- 4) 佐藤俊幸，寒川陽美，大和田功，高木正則，山田敬三，佐々木淳：工業製品自動検査用フェイルセーフシステムの開発，第 9 回情報科学技術フォーラム講演論文集（第 1 分冊），C-022，pp. 439-440，2010. 9

- 5) 高松真伍, 高木正則, 勅使河原可海: 様々な環境の同期対面型講義を考慮した講義支援システムにおけるコメント収集手法の検討, 第9回情報科学技術フォーラム講演論文集(第4分冊), M-005, pp. 285-286, 2010.9
- 6) 小谷篤司, 勅使河原可海, 高木正則: 作問演習において理解度向上を支援する作問手順の検討, 第9回情報科学技術フォーラム講演論文集(第4分冊), N-008, pp. 465-466. 2010.9
- 7) 吉田昌平, 佐藤俊幸, 高木正則, 山田敬三, 佐々木淳: 小学生向け食育支援システム, 第9回情報科学技術フォーラム講演論文集(第4分冊), O-022, pp. 535-536, 2010.9
- 8) 菅原遼介, 高木正則, 山田敬三, 佐々木淳: 地域固有の知識ベース充実に向けたシステム構成の提案, 第9回情報科学技術フォーラム講演論文集(第4分冊), O-033, pp. 557-558, 2010.9
- 9) 高木輝彦, 高木正則, 勅使河原可海, 植野真臣: LDA(Latent Dirichlet Allocation)に基づく問題の類似度算出手法の提案と評価, 日本教育工学会第26回全国大会講演論文集, pp. 275-276, 2010.9
- 10) Masanori TAKAGI, Keizo YAMADA, Jun SASAKI, Tetsuya KANEKO, Masamitsu MOCHIZUKI, Yoshimi TESHIGAWARA, An Analysis on Teaching Methods Using a WBT System "CollabTest" Enabling Students to Create Quizzes Collaboratively, The third EWU-IPU International Exchange Program in Computer Science 2010, pp.5-6, Sept.2010
- 11) Lee See GOH, Shin' Ichi HASHIMOTO, John F WALKER, Masanori TAKAGI, Yoshimi TESHIGAWARA: A Proposal of Evaluation on the Effect of International Exchange Learning using Bloom's Taxonomy, IEICE Society Conference, Proceedings of the 2010 IEICE Society Conference, pp. S103-104, Sept.2010
- 12) Lee See GOH, Masanori TAKAGI, Masamitsu MOCHIZUKI, Yoshimi TESHIGAWARA: CollabTest - A Web-Based Training (WBT) system for proactive learning through quiz created by students, IASCE 2010 Cooperative Learning, Pedagogy, Policy and Practice, Proceeding of IASCE 2010, Nov.2010 (in Press)
- 13) 吉田昌平, 佐藤俊幸, 高木正則, 山田敬三, 佐々木淳: 農業体験学習の経験を食育に結び付ける学習支援システムの提案, 情報処理学会第73回全国大会講演論文集(第4分冊), 2ZC-4, pp. 443-444, 2011.3
- 14) 菅原遼介, 高木正則, 山田敬三, 佐々木淳: 地域に対する知識ベース充実へ向けた作問支援システムの設計, 情報処理学会第73回全国大会講演論文集(第4分冊), 4ZC-3, pp. 481-482, 2011.3
- 15) 池田信一, 勅使河原可海, 高木輝彦, 高木正則: 項目反応理論を用いた類似問題群からの適応的なテスト出題方式に関する検討, 情報処理学会第73回全国大会講演論文集(第4分冊), 1ZD-4, pp. 533-534, 2011.3
- 16) 伊藤貴之, 高木正則, 山田敬三, 佐々木淳: VoIP技術を用いた農業情報配信システムの提案, 情報処理学会第73回全国大会講演論文集(第4分冊), 5ZE-6, pp. 677-678, 2011.3
- 17) 田中貴介, 梶 真人, 高木正則, 山田敬三, 佐々木淳: デジタルフォトフレームを活用した独居高齢者見守りシステムの提案, 情報処理学会第73回全国大会講演論文集(第4分冊), 6ZE-2, pp. 683-684, 2011.3
- 18) 中山晃, 高木正則, 勅使河原可海: 全員参加型の協調学習のための性格を考慮したグループ編成方法の研究, 情報処理学会研究報告, Vol.2011-DPS-146, No.33, pp.1-6, 2011.3
- 19) 小川晃子, 狩野徹, 佐々木淳, 細田重憲, 植田真弘, 元田良孝, 石川みち子, 黒澤美枝, 宮城好郎, 千田睦美, 山田幸恵, 庄司知恵子, 山田敬三, 高木正則, 宇佐美誠史, 佐藤俊治, 上森貞行, 直井道子: 「ICTを活用した高齢者生活支援型コミュニティづくり」プロジェクト実践報告, 岩手県立大学社会福祉学部紀要, Vol.13, pp. 65-69, 2011.3

(e) 研究費の獲得

- 1) 公募型地域課題研究: 持続可能な食育に向けた食育支援システムに関する研究: 600,000円
- 2) 科学研究被補助金基盤研究(B): 協調的作問活動の学習効果を最大化する作問支援環境と教育モデルに関する研究(研究代表者: 勅使河原可海, 研究分担者: 望月雅光, 高木正則, 南紀子): 5,200,000円

- 3) 公募型地域課題研究:電話を活用した独居高齢者安否確認システムのサービス品質と最小コスト問題に関する研究(株式会社イワテシガの課題, 研究代表者:佐々木淳):450,000円
- 4) 公募型地域課題研究:地域包括ケアにおけるICT活用による情報共有の有効性に関する研究(株式会社ワイズマンの課題, 研究代表者:小川晃子):450,000円
- 5) 共同研究:ウェルネスサポートシステムの実用化に向けた基盤研究(シチズンシステムズ株式会社, 研究代表者:佐々木淳):940,000円
- 6) 科学技術振興財団(JST)社会技術研究開発事業「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」研究開発領域:ICTを活用した生活支援型コミュニティづくり(研究代表者:小川晃子):24,960,000円(2010年度)
- (f) その他総説・解説, 調査報告・市場調査, 特許, 受賞, 報道など
該当無し

[大学運営]

- (a) 全学委員会
該当無し
- (b) 学部/研究科の委員会
 - 1) 入試実施委員会 委員
 - 2) 就職委員会 委員
- (c) 学生支援
該当無し
- (d) その他
 - 1) IPU 地域連携フォーラムへの参加(ポスターセッション, 平成22年12月18日)
 - ・岩手こだわり食材データベース「いわて食マップ」の開発
 - ・診療所を中心としたウェルネスサポートシステムの研究

[社会貢献]

- (a) 国や地方自治体などにおける活動
該当無し
- (b) 企業・団体などにおける活動
該当無し
- (c) 一般教育
 - 1) アイーナキャンパス事業「IPU 情報システム塾」の企画・補助
- (d) 産学連携
該当無し
- (e) 学会などにおける活動
 - 1) 情報処理学会 会員
 - 2) 教育システム情報学会 会員
 - 3) 日本教育工学会 会員
 - 4) 環境情報科学センター 会員
 - 5) 日本教育工学会研究会 座長(平成22年7月3日, 電気通信大学)

(f) その他

該当無し

[主な業績]

1. ICT を活用した教育支援システムに関する研究

これまで研究開発してきた「CollabTest」（学生が協調的に作問可能な WBT システム）の更なる改善や普及を図った。特に、今年度は中国やアメリカなど海外の大学にも積極的に導入を推進した。また、作問による学習効果を向上する作問支援環境の設計や、問題の相互評価活動への全員参加を促進する最適なグループ編成手法の検討を行った。

この他、ポートフォリオシステムにおける学生の継続的な記入を促す支援機能の設計や、平成 18 年度から本講座が開発、運用を行ってきた食育ネットの改良を行った。

2. 地域情報システム構築法に関する研究

これまで開発してきた「CollabTest」をご当地検定で出題される問題収集環境として利用することを検討した。携帯電話から位置情報が付与された地域に関する問題が収集可能となり、地域学習システムとしての利用もできるようになった。また、このシステムを利用した地域活性化を図る新しいビジネスモデルを検討した。

3. 健康増進支援システムに関する研究

地域住民の健康増進支援につながる情報システム IHISS（Integrated Health Improvement Support System）において、より簡単に食事情報を登録できる方法や料理レシピを提案する方法について検討した。